



合同彼岸供養や合同盆供養などが営まれる永代供養の合祀墓は、人間だけのものとペットも共に入れるもの、2種類がある

人も動物も命の尊厳は同じという信念で

小豆沢墓苑

家庭的な温かさにも包まれた ペットも共に眠れる終の棲家

都心にお墓を。その思いは、都心に暮らす多くの人の願いだろう。しかしそのハードルはどんどん高くなりつつある。いいお墓とは「立派なお墓」ではなく「参拝してもらえるお墓」との思いから「参拝しやすさ」「環境の良さ」「利用者への心配り」にこだわった墓地在板橋区にあった。立地の良さもさることながら、「ペットも一緒に眠れる」というコンセプトにも惹かれ、墓苑を訪ねた。

外の光が降り注いでいた。

お墓参りに来た女性にスタッフの声をかけている。「〇〇さん、こんにちは。お花、長持ちしましたね」「ねえ、ピツクリしちゃったわ。お墓に供えていたお花を手に言葉をお交わす風景は、この墓苑が良き供養の場として親しまれていることを物語っていた。

「もし霊園管理コンテストがあったら、私たちがずっと優勝できるね、とみんなが話しているんです」と、管理事務所スタッフは笑顔を見せる。メンテナンスの清潔さだけでなく、信頼でつながった利用



季刊のニュースレター「ぼえん便り」のほか、「三味線演奏会」や「和太鼓奉納」といった合同供養イベント、手作りひょうたんを子どもたちに配るなど、「墓苑」から生まれた縁を大切にしている

者とのコミュニケーションがアットホームな空間を作り出している。「ご家族やご友人に言えないようなことをお話してくださる利用者さまもいらつしやいます。私たちは踏み込みすぎることほしません



室内墓のフロアは天井が高く三面が開放されているので圧迫感がない、夜間はシャッターが開まるので安心だ。「墓苑の一日は掃除から始まる」というだけあって、墓苑内はどこも清潔

が、『ご供養』という大切なものを通して何か深い部分でつながっている感覚です。かつてのお寺が果たしていたような役割を担っていると感じています。お孫さんとご一緒に参拝に見えて、その成長に驚かされたりといった嬉しい出来事も日々あります」

見晴らしのよい屋上の「天空階」では、墓石の傍らにたわわに実った甘夏の木。奥には合祀型の永代供養墓や納骨形式の個別の永代供養墓が並んでいる。個別の納骨タイプは夫婦や兄弟、友人など2人で利用できるタイプのものも。供養に求める形は人それぞれであり、その希望にできる限り応えようという工夫が随所に見受けられた。

「ペット」ではなく「家族」
 一緒のお墓で眠りたい

そして、この小豆沢墓苑の最大の特徴の1つが、「ペットも共に眠れる墓苑」であること。「人間の命も動物の命も、その尊さは同じ」と考えている。

この墓苑を運営管理する清岸寺の鈴木和順住職は、かねてより「大切なペットと一緒にお墓に入ることはいかに



ペットの名前の横には家族の手描きの似顔絵が彫られているものもある

という檀家からの相談を受け、その可能性を考えていたという。高齢化や核家族化が進む中で、ペットの位置づけも、単なる「ペット」から、人生を共に歩む「コンパニオンアニマル」へと変化した。まさしく「家族」である。その「家族」が亡くなると「遺体」ではなく「産業廃棄物」の区分に入れられてしまう現実。そこに大きな違和感を抱く家族たち。その声に耳を傾けた住職によって、宗教不問、ペットも一緒のお墓に入る事のできる小豆沢墓苑が生まれたのである。墓苑内には、可愛らしいペットの名前も一緒に刻まれた墓石がそこそこ見受けられた。「ペットも家族の一員。みんな、いつかは一緒にここで眠りたい」。その願いを受け止め、形にしてきた小豆沢墓苑は、供養に新しい時代の風を吹き込んだといえよう。